

非常通信伝達訓練・救命講習会

佐々木 朗 (JH8CBH) 函館市

●非常通信伝達訓練

JARL 渡島檜山支部では、7月6日に非常通信ボランティアを対象に非常通信伝達を実施いたしました。

このボランティアには支部会員38名が登録されており、万が一の災害が起こった時に、自分の可能な範囲で、通信の分野で災害の救援に寄与できるよう訓練や研修を行っております。

この日の訓練では、同日の朝早く大地震が発生し、インフラは寸断され、罹災者が着の身着のまま避難所に集まってきたという想定で、地元の避難所に赴いた非常通信ボランティアが、現地の様子を現地対策本部のある基地局に送るという訓練を行いました。



今回の訓練では、基地局のオペレータはJA8WNR 清水さんが担当、記録はJA8VKV 小野田さんが取りました。訓練には、8局が参加し、避難所に集まっている人数、怪我の状況、不足物資などの想定情報が本部に伝達されました。

また、この訓練には、北斗市の防災担当

の職員2名も、訓練の様子を身に来ていただきました。

災害はいつ発生するかわかりません。しかし、訓練を通して、私たちアマチュア無線は、災害時に強い通信手段であることを改めて確認すると共に、訓練の大切さを感じました。

●研修会・報告会

この日の午後から行われました研修会・報告会では、JA8CUH 佐藤 佳明さんを講師に、1993(平成5)年、北海道南西沖地震により甚大な被害が発生した奥尻町にいち早く駆け付け、アマチュア無線により町内の交通の秩序を守った経験を伺いました。



また、奥尻の円滑な通信を確保するために七飯にあったレピータを上ノ国の夷王(いおう)山に移したという話も聞きました。

また、後半は、JA8PDG 金子 紀行さんを加え、現在、函館市汐首岬の頂上付近に設置されているJA8WW(439.66MHz)の管理について説明をしていただきました。商用電源を使わず太陽光のみを電源

とするレピータですので、長期間に渡っての停電でも、その機能が失われることはありません。

しかし、自然環境は厳しく、定期的な点検、また、バッテリーの交換など、安定的な動作維持には、気を遣うことも多いということです。



最後に、「せっかくあるレピータですので、どんどん使ってください。」と言葉をいただきました。

報告会では、JA8VKV 小野田総務幹事の方から、その日に伝えられた訓練情報が披露されました。正確に伝えるには、復唱することが大切であるなどの反省点も挙げられました。

●救命講習会

また、翌々日の8日には、函館市消防本部職員の及能さんを講師に、普通救命講習会が開催され、支部会員10名が参加しました。

講習では、胸骨圧迫(心肺蘇生)や喉つまりの場合の対応、AEDの使い方を学びました。

報道番組などでは、救命措置は、見かけることができますが、実際にやってみると、胸骨圧迫を続けるにはかなりの体力がいることがわかりました。また、AEDについても、自分たちの地域ではどこに

あるのかなどを知っておくことが大切であることもわかりました。



呼吸がない場合は、救急車が来るまで救命対応で、命が助かるかどうかが大きく左右されます。また、措置が早かったほど、回復したあとの社会への復帰の割合も高くなっているそうです。

今回の研修では、応急処置の大切さを学びました。

また、救急車の出動台数は、増えているようで、函館消防の管内でも、昨年一年間で約1万6000回の出動数があるそうです。命に関わる時の119番は、もちろんですが、不要不急な119番は避け、救急車が必要な方のところに1秒でも早く到着できるように、配慮いただければということでした。

